

# 直売所出荷で差別化を図る 栽培ポイント

## 施肥設計は追肥型で

本来、秋まきダイコンは一番栽培しやすい時期で、特に秋～年内どりは元肥主体の栽培が一般的でしたが、前述のように地球温暖化の影響とされる秋の温度の上昇や、極端な大雨、台風などの自然災害の発生などにより、元肥一本の栽培ではなかなか難しい場面が多くなってきました。

そこで、全体の肥料設計（チッソ成分）は今までと同じかやや少なめとし、それを元肥と追肥に振り分けて施肥を行います。基本は元肥：追肥の比率を3：1か4：1にし、本葉5枚前後で追肥を行います。例えば、大雨で肥料が流亡したり、播種直後から温度が高く生育が旺盛になった時は、それらの状況に応じて追肥の時期を前後させたり、施肥量を加減してください。



膨軟で通気性のよい土で栽培することはもちろん、葉と根のバランスがよい生育をさせるためにも施肥の量や時期、栽植密度にも気をつけることが大切（写真は「YRくらま」）。

大雨で肥料が流亡した時は、圃場が乾いたらすぐに中耕をかねて軽く追肥を行うか、葉面散布を施します。逆に生育が旺盛な場合は、追肥の時期を遅らせるか、追肥の量を減らして施します。

## 肌のよいダイコンを収穫するなら、 まず土づくりから

今回紹介した品種は、いずれも肌のきれいな品種ばかりです。しかし、圃場の水はけが悪かったり、逆に水もちが悪く乾きやすい圃場であったりすると、肌の病害（横縞症や亀裂褐変症など）の発生原因となります。膨軟で通気性のよい土づく

りをするには、有機物の定期的な補給が必要です。有機物は、堆肥の投入や緑肥作物の栽培で補給すればよいでしょう。

## 被覆資材の利用

12月下旬～1月に収穫する品種として「耐病総太り」を紹介しました。この品種は寒さに強い品種ですが、さらに不織布などによるベタがけを行えば、寒害対策として効果的です。ベタがけをすると葉や青首部の黄変、首部の凍結や寒さによる傷みが軽減され、より新鮮さを保って収穫することができます。被覆する目安は、霜が1～2回降りたころです。早い時期から被覆したり、寒さがあまり厳しい地域ではない場合の使用は、葉の生育が助長されて、曲がりや生育不良で品質を落とす場合があるので気をつけてください。

## 役立つ栽培知識

### Q：葉の長さとの根の長さの関係は？

A：一番長い葉を折り返して、根の長さ比べてみてください。葉と根の長さが同じくらいが生育のよいバランスです。ただし、秋どりの「白肌美人」は元来小葉の品種ですから、根の方が長くなります。この関係が逆転（葉の方が長くなる）すると、根の生育が悪くなったり、曲がりが発生したり、病気（軟腐病など）の発生を助長したりします。

葉の生育は温度とチッソ成分の量に大きく関係します。元肥の量や栽植密度に気をつけて栽培することはもちろんですが、生育途中にも追肥の時期や量によって、葉の生育をコントロールしましょう。

■直売所出荷向け ダイコン標準栽培 適期表  
（※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください）

品種名	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
耐病総太り			●	●	—	—	—	—	—
YRくらま			●	●	—	—	—	—	—
白肌美人			●	●	—	—	—	—	—

●● 播種期 — 生育期 — 収穫期



切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。

売上アップを  
目指す!  
直売所出荷で  
いいもの作ろう!

# ダイコン

肌のきれいな品種でリレー出荷しよう!



ダイコン担当  
藤田 守久

## 直売所出荷向きの品種選定

### 一般地11月～1月上旬までの リレー出荷 おすすめ品種

冬どり～秋どりの順にさかのぼる形で、おすすめの3品種を紹介します。

まずは年内～冬どりの「耐病総太り」、年内どりの「YRくらま」です。この2品種は青首ダイコンのおいしさの代名詞となっている品種です。

「耐病総太り」は1974年に新発売されて以来、30年以上も青首ダイコンの代名詞としてご愛顧いただいている品種で、ス入りの遅さには定評があります。煮物、サラダ、漬物など、どのような使い方もできます。



ダイコンを使った調理例 (左:甘酢サラダ仕立て、右:おろしあえ)。

一方、「YRくらま」は「耐病総太り」より収穫時期が早く、主に年内どりを中心に収穫する品種です。この品種は歯切れがよく、みずみずしい肉質をしているので、特にサラダにして食べるとおいしいダイコンです。プロの生産者の間でも、「自家用で食べるなら『YRくらま』が一番」といわれる品種です。肌が美しいので、直売所でも特に目立つ存在になること間違いなしです。

### 私の一押し!

#### 秋どりの新品種「白肌美人」

近年、地球温暖化の影響だといわれているように、特に9月の温度が高くなっており、これまで使用してきた品種だと葉が大きくなりすぎる場合が多くなってきました。そこで、9月上旬に播種して11月に収穫する品種として、今年新発表された「白肌美人」をおすすめします。

「白肌美人」は「耐病総太り」や「YRくらま」同様、おいしい品種として育成されました。肉質が緻密で漬物にしても歯切れがよく、食味をアピールできます。これまでの品種と違うところは、葉が小さくなっているため、9月の温度が高くてもむやみに葉が大きくなりすぎず、栽培しやすい点です。根長もやや短めで曲がり少なく、肌がきれいで青首が鮮明なので、この品種も直売所の売り場で目立ちます。

**耐病総太り:**「青首ダイコンの代名詞」ともいえる人気のダイコンで、ス入りが極めて遅く、良質。

**YRくらま:**ウイルス病や萎黄病に強い良質の青首ダイコン。肉質は歯切れがよく、みずみずしい。

**白肌美人:**緻密な肉質を持つおいしい品種。温度が高くても葉が大きくなりすぎず、栽培しやすい。





# 直売所出荷で差別化を図る 栽培ポイント

## 発芽揃いをよくする 播種の注意点

播種する株間や条間は、収穫するサイズによって変わってきますが、ほかの品目同様、カブでも発芽揃いがそのまま収穫物への揃いのよしあしにつながります。特に生育期間の短い小カブで、高温期に播種する作型においては、発芽揃いに十分気をつけてください。

対策としては、

- 播種する前に圃場の湿り気が十分あること
- 種子の播種する深さが一定であること
- 生育初期に圃場の水分管理をすること

この3点がポイントです。

## 施肥は臨機応変に

小カブや中カブは元肥主体で、大カブは元肥＋追肥で栽培してください。ただし、小カブや中カブでも、大雨などで肥料が流れ出したり、生育が順調でない場合には、葉面散布で追肥すると効果的です。

## 減農薬栽培にチャレンジ！

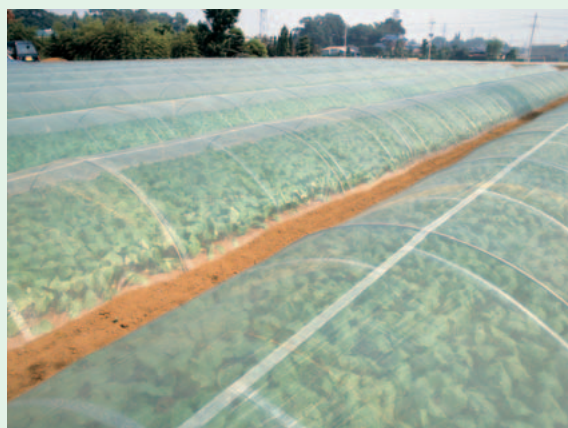
**被覆栽培** 秋まきにおける問題点のひとつに、害虫による葉の食害が挙げられます。特に小カブや中カブ栽培では、葉も商品として出荷するので、食害があると商品価値が下がってしまいます。こういう場合の対策としては、薬剤散布による予防などが挙げられますが、できるだけ少ない農薬で栽培するには、播種直後に防虫ネットのような被覆資材で密閉被覆すれば、被害はかなり軽減されます。逆に葉付き販売することで、減農薬栽培をアピールするとよいでしょう。

被覆栽培で重要になるのが、

- 播種してすぐに被覆すること
- 裾をしっかりと埋めること
- 穴の開いた被覆資材を使用しないこと

これらがひとつでも守られない場合は、被覆資材をかけることによって、かえって虫かごで虫を飼うような状態になり、被害が拡大するので気をつけてください。被覆しておく期間の目安としては、トンネル状に被覆した場合は、葉が被覆資材にあたるようになった時点で除去してください。

**栽植密度の調整** 主に小カブの7～8月まきの栽培で有効です。この時期は夜温や湿度が高く、葉の生育が旺盛になりやすく蒸れやすい時期です。そのような栽培では、葉の病気が玉の表面に横縞などの病気が発生しやすくなるので、通常の秋まき栽培より、株間や条間を2～3割程度広めることで秀品率がアップして、収量が上がります。



害虫対策のため播種直後から被覆資材で密閉被覆すれば食害はかなり軽減され、減農薬栽培のポイントとなる。

■直売所出荷向け カブ標準栽培 適期表  
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

栽培型	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小カブ	●	—	—	—	—	●			
中カブ	●	—	—	—	●	—			
大カブ		●	●	—	—	—	—	—	—

●● 播種期 — 収穫期

体を温める効果の高いカブ

栄養満点な葉っぱも食べて

ボクの葉っぱ  
すてないで！

タネのタキイ

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。

売上アップを  
目指す!  
直売所出荷で  
いいもの作ろう!

# カブ

大・中・小を年間通じてムダなく出荷!



カブ担当  
藤田 守久

## 直売所出荷向きの品種選定

カブは収穫するサイズによって小カブ、中カブ、大カブに分かれます。ここでは、そのサイズごとにおすすめ品種を紹介していきましょう。

### おすすめ小カブ

収穫時期で品種を使い分けます。11月どりまでは「CRもちばな」、12月どり以降は「福小町」が適しています。両品種とも小カブとしてのまとまりがよく、肉質も小カブらしくぬめりがあり、甘みがあります。連作による土壌病害(根こぶ病)にも安定して強く、栽培しやすい品種です。

### 私の一押し!

暑い時期に播種できる品種  
「CRもちばな」

小カブを通年にわたり安定して出荷したい場合に重宝する品種です。暑い時期に発生する、玉の変形やス入りの発生がほとんどなく、「サンサンネット」などを使用した被覆栽培をしても、葉の徒長が少なく栽培しやすいでしょう。中小カブの大きさまで大きくすることができます。

### おすすめ中カブ

「耐病ひかり」と「スワン」がおすすめです。「耐病ひかり」は中カブの定番品種なので、今回は主に「スワン」について紹介します。

「スワン」の最大の特長は、その肉質にあります。やわらかく緻密な肉質は、11月に入って気温が下がってくると甘みがプラスされます。11月中旬以降は、その味が柿のようになり、とてもおいしいと好評です。直売所の期間限定の目玉として、おもしろい存在になるでしょう。

### おすすめ大カブ

大カブは主に漬物の原料として使われるカブで、「早生大蕪」と「京千舞」がありますが、中でも「京千舞」について紹介します。

「京千舞」の特長はつくりやすさです。カブの連作地で問題になるものに、土壌病害(根こぶ病)があります。「京千舞」はその根こぶ病に安定して強いので、発生圃場でも栽培できます。また、肥大も安定しているので栽培しやすい大カブです。次々と売れるものではないでしょうが、毎年、少量でも決まった時期に陳列しておけば、存在感があるので、固定客が付くかもしれません。

CRもちばな：通年にわたって出荷できる品種。根こぶ病に強く、玉の変形・ス入りが出にくい良質な小カブ。



スワン：肉質はやわらかで甘みがあり、漬物のほかにサラダでも食せる。特に11月中旬以降は直売所の期間限定目玉商品として出荷が可能。



京千舞：根こぶ病に強く肥大も安定している栽培しやすい大カブ。繊維が少なく歯切れがよいので千枚漬に最適。





# 直売所出荷で差別化を図る 栽培ポイント

## 適期播種とは…

近年は暖冬傾向により育苗期の苗の進みや活着の早まり、ひいては年内生育の促進という結果が例年のことようになってきました。家庭菜園で買い苗からスタートする場合は10月下旬や11月上旬の定植が一般的ですが、播種して育苗する場合は苗傷みも少なく活着がよくなるので、播種期を少し遅らせるくらいが丁度よいでしょう。

特に「ソニック」「アトン」「ネオアース」の3品種は初期生育が旺盛なので、彼岸過ぎの播種でも生育は十分間に合います。一般地では9月20日ごろに播種を行い、「ソニック」は50日、「アトン」「ネオアース」は55日育苗で定植するのが無難です。また、暖地ではさらに5日程度遅らせるとよいでしょう。

## 時期と量を考慮した肥培管理

**元肥** 初期生育が旺盛なので、定植後の活着もスムーズに進みます。そのため、元肥が効きすぎると年内の生育を進めることになり、抽苔や分球につながります。元肥に使用する肥料は有機化成などの緩効性肥料を主体とし、年内の生育は活着までを目安にします。

**追肥** 年内の生育を抑えた分、年明けからは追肥を行い、生育を促します。速効性肥料で約1カ月おきに3回程度行いますが、特に最終の止め肥が重要で、遅肥や多肥になると株の栄養生長を促すこととなり、熟期の遅れや病害、さらには貯蔵中の腐敗の原因となるので、時期と量に注意が必要です。収穫の2カ月前までに止め肥を終えるよう、心掛けてください。

## 収穫の目安とポイント

「ソニック」は太りが早いので、倒伏前から収穫しても葉付きタマネギとして見栄えのよいもの

が収穫できますし、「アトン」「ネオアース」と同様の収穫方法だと8月ごろまでの貯蔵も可能になります。

「アトン」「ネオアース」は、地上部が倒伏してから1週間ほど待って収穫すると葉から玉へと養分の転流が十分に行われるので、玉がかたくしまった、貯蔵性も高くおいしいタマネギに仕上がります。収穫作業は晴天が数日続くころを見計らって行い、抜き取り後2日ほど畝の上で地干しすると風乾により余分な水分が飛ぶので、玉の色付き・皮付きがよくなる上に、貯蔵中の腐敗も軽減することができます。

## 栽培ワンポイントアドバイス

### 株の根張りとおりを確保！「マルチ栽培」

「ソニック」の早出しや「アトン」の大玉栽培には、マルチ栽培が有効です。露地栽培よりも地温が確保できるので、株の根張りがよく太りやすくなります。また、雑草対策にもなり、栽培労力が軽減できます。以下のポイントに注意してマルチ栽培にチャレンジしてみてください。

- ①播種期…マルチ栽培では地温が確保できる分、生育が進みます。露地栽培より5日程度遅らせる設定がよいでしょう。
- ②施肥…追肥ができないので緩効性肥料で全量元肥とし、ゆっくりと長く効く肥料設計が有効です。「アトン」の場合は、マルチ栽培でも2月に振り肥を少量施すことで早春の生育を促せ、玉太りには効果的です。
- ③水管理…肥大期の水不足は玉の肥大不足につながります。春先に株間に穴を開けて雨水を入れてやると、目的の大きさに仕上がります。

■直売所出荷向け タマネギ標準栽培 適期表  
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

品種名	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
ソニック	●	---	×	—	▲	▲	▲	▲	▲	■
アトン	●	---	×	—	▲	▲	▲	▲	▲	■
ネオアース	●	---	×	—	▲	▲	▲	▲	▲	■

●播種 ---育苗期 ×定植 —生育期 ▲追肥 ■収穫期



切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。

売上アップを  
目指す!  
直売所出荷で  
いいもの作ろう!

# タマネギ

甘みたっぷり! 高品質タマネギでアピールしよう!



タマネギ担当  
みやがき 将志  
宮垣

## 直売所出荷向きの品種選定

### 早生タマネギ

「ソニック」は5月上旬から収穫できる早出し出荷用の品種です。草姿は立性で強勢なので、寒さによる葉傷みが起こりにくく比較的病害に強い品種です。また、倒伏後に玉じまりを待って収穫すれば、8月ごろまで貯蔵が可能になるので、早出しタマネギの価格が安定しない年などは貯蔵出荷に切り替えることも可能な、使い勝手のよい品種といえます。

### 中生タマネギ

長期貯蔵で出荷の期間を長くし、量を扱いたい作型ですが、味がよく質のよいタマネギで顧客の信頼を勝ち取ることもひとつの手です。

「アトン」は食味のよさが特長です。肉厚で歯切れがよく多汁質な肉質であり、また辛味が少ないことから、甘みを強く感じる品種です。生でサラダなどに入れるとさわやかな食感を楽しむことができますし、焼肉などではとろりと甘く仕上がりに、お肉の味を引き立ててくれます。肥大性にも優れた品種で、大玉栽培ではソフトボールサイズに仕上がります。

収穫は中間地で5月下旬ごろからで、病気には比較的強く栽培中の病気を貯蔵に持ち込むことも

ないので、大玉に仕上げても10月ごろまで貯蔵できます。また、普通栽培では12月ごろまで貯蔵できるようになります。

### 中晩生タマネギ

「ネオアース」は6月上旬からの収穫となる長期貯蔵種です。貯蔵中は萌芽や尻動きが遅いので12月ごろまで安心して出荷でき、家庭菜園では2月ごろまで食用として使えます。また、貯蔵病害にも比較的強いので、腐敗によるロスも少ない品種です。玉の色やテリなど外観が美しく、豊円で見栄えのするタマネギです。



かたくしまった、貯蔵性の高いタマネギを収穫するためにも、地上部の倒伏後、1週間ほど待ってから収穫するとよい。

ソニック：切り玉出荷におすすめの早生種。夏までの貯蔵も可能なので、使い勝手がよい。

アトン：肥大性に優れるので、普通栽培のほか、大玉栽培で極大玉を収穫することも可能な中生種。

ネオアース：貯蔵性に優れる中晩生種で、色ツヤがよく外観がよい。





# 直売所出荷で差別化を図る 栽培ポイント

## 播種と育苗について

ハクサイは本来直播性の強い作物ですが、移植栽培の方が播種直後の幼苗期を集中的に管理でき、よりよいものが作りやすいといえます。

7.5cm程度のポリポットに、消毒済みの無病の培土（タキイ「たねまき培土」など）を入れ、1ポット当たり2～3粒のタネをまきます。本葉が2～3枚になるころ、一番よい苗を1株残してほかの株を間引きます。育苗期間20～25日、本葉4～5枚の苗が定植適期です。

## 畑の準備と定植

まず10a当たり堆肥2t、苦土石灰を100kg施しておきます。元肥は定植の10日前までに化成肥料（チッソ：リン酸：カリ＝10：10：10）を200kg程度施用し、土とよく混ぜなじませておきます。

畝幅は1条植えなら60cm、2条植えなら140cm程度が基本です。株間は40～45cmとします。定植はポットの表面が1cm程度覆われるくらいの浅植えを基本とし、生長点に土がかかるような深植えは厳禁です。定植後は株元にしっかりと灌水をして、活着を促しましょう。

## 中耕と追肥、収穫のタイミング

ハクサイは水分や養分が不足すると肥大が劣る



肥大を順調に進めて、生理障害のないものを収穫するためにも、水分・養分が不足しないよう管理することが大切（写真は「晴黄60」）。

だけでなく、石灰欠乏症（芯腐れ症）などの生理障害を起こしやすくなるので、生育期間全体を通じて肥料切れしないように管理することが大切です。そのためにも、生育途中の追肥と灌水は非常に重要です。

1回目の追肥は定植後7～10日目ごろが目安で、活着して根が動き始めたら行います。10a当たり速効性の化成肥料（チッソ：リン酸：カリ＝10：10：10）を30kg程度、株元に施します。同時に除草をかねて、畝の表面を軽く耕して中耕もすると、肥料の効きもよくなって効果的です。

2回目の追肥は、芯葉が立ち上がり結球を始めるころを目安に行います。方法や施肥量は1回目と同様ですが、外葉が大きくなっていて耕すのが難しいようなら、中耕はしなくても構いません。

外葉が伸びる時期に雨が少なく乾燥するようなら、灌水を行いましょう。特に芯葉が立ち上がる時期の前後で乾燥すると、球内に石灰欠乏症が発生しやすくなるので注意が必要です。

結球が進み、ハクサイの頭部を押さえて、よくしまった株から収穫してください。

## 病虫害対策のポイント

秋から冬にかけては病虫害も発生しやすい時期なので、適期防除が大切ですが、少しでも農薬の使用を減らすなら、定植直後からのトンネル被覆栽培がおすすめです。定植した時に「サンサンネット」などのトンネルで被覆すると、害虫の飛来を防いで食害を減らせるだけでなく、強い雨の被害を軽減できることから、病気の予防にも効果があります。

■直売所出荷向け ハクサイ標準栽培 適期表  
（※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください）

品種名	栽培型	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
晴黄60	中間地			●	×	—	—	—	—	—
晴黄85				●	×	—	—	—	—	—
晴黄90				●	×	—	—	—	—	—
プチヒリ				●	×	—	—	—	—	—

● 播種 --- 育苗期 × 定植 — 生育期 — 収穫期

プチヒリラーメンで

日本のタキイ

あったか家族!

プチヒリ白菜はラーメンの具材に相性ピッタリ!

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。

売上アップを  
目指す!  
直売所出荷で  
いいもの作ろう!

# ハクサイ

高品質ハクサイを連続出荷!



ハクサイ担当  
平松 宏典

## 直売所出荷向きの品種選定

秋から冬にかけては、鍋物野菜の主役であるハクサイの“旬”にあたります。またハクサイは、古く中国では、豆腐、ダイコンと併せて「養生三宝」と呼ばれていたほど、健康野菜の代表格でもあります。

気候的にも最も作りやすいこの時期、栽培のポイントをしっかりと押さえて、いいものを出荷しましょう。

### 秋冬どりのおすすめ品種 「晴黄」シリーズ

「晴黄」シリーズはどの品種も球内色が鮮やかな黄色で品質がよく、べと病や根こぶ病など各種病害に強く、安心して作ることができます。

「晴黄60」は耐病性と耐暑性に優れるので、高温期の栽培に最適です。尻張り・胴張りがよい砲弾形の玉で、肥大性にも優れます。

「晴黄85」は特に食味に優れた品質良好の中生種です。石灰欠乏症（芯腐れ症）やゴマ症などの生理障害に強いだけでなく、肥大性にも優れるので、最も作りやすい品種といえます。

「晴黄90」は耐寒性と晩抽性に優れた冬どり中晩生種です。耐寒性が強く寒さ傷みにくだけでなく、芯伸びも遅いので在圃性に優れます。

中間地の秋～冬どり栽培におけるこれら3品種

の使い分けは、「晴黄60」（10月下旬～11月どり）→「晴黄85」（11月下旬～1月どり）→「晴黄90」（12月～2月上旬どり）の品種構成で、秋口から年明けまでの連続出荷が可能になります。

### 私の一押し!

#### 差別化をねらうなら「プチヒリ」!

定番ハクサイとしては「晴黄」シリーズがおすすめですが、差別化をねらうなら「プチヒリ」がおもしろいと思います。

「プチヒリ」は家庭菜園で人気のタケノコハクサイのミニサイズ品種で、株間を調節すれば800g程度のミニサイズから、1kgを超える大きさまで用途に応じた収穫ができます。また密植が可能で、株間にもよりますが、10㎡当たり最大で約100本も定植ができます。

ミニサイズなら収穫しても大玉品種のカットサイズ程度になるため、1玉売りならではの新鮮さをアピールすることができます。

タケノコハクサイは普通のハクサイと比べるとやや肉質がかたいため、野菜炒めや煮炊きに向いています。普通のハクサイよりもやわらかくなりすぎず、食味の点でも目新しく差別化が図れます。

※「プチヒリ」を使った調理例をP16、P93～P94に掲載していますので、ご覧ください。

晴黄60：耐病性・耐暑性に優れる極早生種。玉肥大がよく、品質もよい。



晴黄85：特に食味に優れる、品質良好の中生種、シリーズ中、最も作りやすい品種。



晴黄90：耐寒性と晩抽性に優れる冬どり中晩生種で、厳寒期でも色あせが少ない。





# 直売所出荷で差別化を図る 栽培ポイント

## 冬どり栽培で 大玉生産をねらうには

「レガシー」や「シスコF」を用いる冬どり栽培は、十分な気温の確保が難しい作型になります。そのため、マルチ栽培やトンネル、ハウスを利用した被覆栽培で温度を確保し、玉肥大を促進することが必要です。また、若苗定植を心掛けて、スムーズな活着と根張りを促し、外葉と玉の形成を順調に進めることも大切になります。

**マルチ栽培** 低温期の栽培では、地温の確保や肥料の流亡を避ける点から、マルチ栽培は欠かすことができません。さらに、雑草抑制や土のはね返りを防ぎ、病害予防にも役立つので、高品質なレタス栽培には不可欠です。



冬どり栽培では、トンネルなどを利用して温度を確保することがポイント。

**ハウス、トンネル管理** 平均気温が10℃になるころから、ハウスやトンネルなどの被覆内で栽培します。その際、玉レタスでは生育ステージに応じた温度管理を行うことが重要です。

## 定植後1週間から結球開始まで

定植後1週間は両側換気で蒸し込みを避け、地上部の徒長を防ぎ、根張りを確保します。結球開

始までは、被覆内気温が25℃以上の高温時のみ片側換気を行い、やや暖かめの環境で外葉の生育を促します。

## 結球開始から収穫まで

玉が握りこぶし程度になるまでの間は、被覆内気温が20℃以上にならないよう換気を行い、玉の形状を整えます。結球中期からは被覆内気温が25℃以上の高温時のみ換気を行い、やや蒸し込みぎみで玉の肥大を促します。

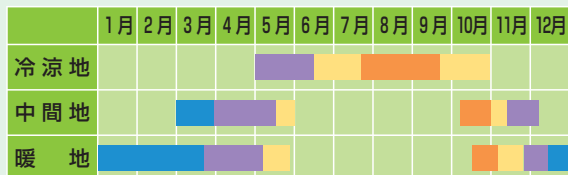
**厳寒期どりの肥大促進** 玉肥大が最も鈍くなる厳寒期どりでは、収穫の1週間前あたりにベタがけ被覆を行い、一層の肥大促進をねらいます。

**被覆環境の規模** 被覆内の空間は大きい方が気温の変化が小さく、生育により条件となります。経済性と生育条件の両面から考えると、200cm幅のビニールを使用するトンネルでの栽培がおすすめです。一方、安定した条件下での良品生産と換気の省力化をねらうならハウス栽培が適しています。

## 冬どり栽培での病害予防

低温期の栽培では、温度確保のため蒸し込みぎみの栽培になりやすく、べと病、菌核病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなります。これらの病害を予防するには、育苗期から予防的に薬散を行い、病原菌を本圃へ持ち込まないことが大切です。さらに、昼間の暖かい時間帯にわずかでも換気し、被覆内の湿度を下げることも病害を予防する効果があります。

■直売所出荷向け レタス収穫時期別品種選定表



※この表は概ねの品種適作型を示すものです。詳しい適作型は品種ごとにご確認ください。

	玉レタス	レッドリーフ	グリーンリーフ	その他
■	「サウザー」 「カイザー」	「サマーサージ」	「ダンシング」	「マザーレッド」 「マザーグリーン」
■	「サウザー」 「極早生シスコ」	「サマーサージ」	「ダンシング」	「マザーレッド」 「マザーグリーン」
■	「マリア」 「パークレー」 「ウィザード」	「レッドファルダ」	「ダンシング」 「グリーンウエーブ」	「マザーレッド」 「マザーグリーン」
■	「シスコ」 「レガシー」 「シスコF」 「冬シスコ」	「レッドファルダ」	「ダンシング」 「グリーンウエーブ」	「マザーレッド」 「マザーグリーン」

日本のタキイ

## 飽きない野菜。 それがレタスです!

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。

売上アップを  
目指す!  
直売所出荷で  
いいもの作ろう!

# レタス

豊富な品揃えと良品多収で売上アップ!



レタス担当  
田村 俊樹

## 直売所出荷向きの品種選定

### 玉レタス

気温や施肥量、土壌水分などの環境条件に敏感な玉レタスを安定生産するには、作型に適した品種を選ぶことが大切です。しかし、直売所出荷では多くの品種を使い分けることが難しいため、栽培適応性の広い品種を選ぶことで、品種数を絞ることも重要です。そこで、環境の変化に比較的鈍感で栽培しやすい品種として、以下の4品種をご紹介します。

「サウザー」…高温期の栽培に適しており、トウ立ち（抽苔）が遅く、濃緑でテリ・ツヤがよく、新鮮味あふれる品種です。

「マリア」…中間地や暖地の11～12月どりなどの適温期の栽培に適した、肥大性のよい晩抽・中早生種です。球葉はみずみずしく、食感にも優れています。

「レガシー」…草勢は旺盛で、低温期の玉肥大が優れるうえに、被覆栽培下の蒸し込み条件下でも比較的暴れにくい品種です。そのため、冬どり栽培で肥大と形状のよい玉が収穫できます。

「シスコF」…極低温下での肥大性と結球性が優れ、厳寒期どり栽培におすすめの品種です。

### レッドリーフレタス

老化のサインと見られる芯部の着色が出にくく、赤と緑のコントラストが鮮やかで、新鮮味が長続きする品種には、次の2品種をおすすめします。

サウザー：濃緑でテリ・ツヤがあり、気温による玉の形状の乱れが少ない。

レッドファルダー：栽培容易で葉色が濃いレッドリーフレタス。

ダンシング：草勢が旺盛で、高温期の栽培に適するほか、低温期の葉伸びも優れるリーフレタス。



「サマーサージ」…抽苔が遅く、高温期の栽培に適します。気温変化の激しい時期に発生しやすい肋部分のさび症が出にくい品種です。

「レッドファルダー」…低温期の栽培に適し、生育旺盛な草姿立性の栽培しやすい品種です。

### グリーンリーフレタス

「ダンシング」…抽苔が遅く、高温期の栽培に適するほか、草勢が旺盛で低温期の葉伸びも優れた品種なので、低温期～高温期まで幅広い作型に適します。また、わき芽の発生も少ないため、収穫後の調製作業も容易です。

### 私の一押し!

#### 作りやすくおいしい新タイプのレタス

「マザーレッド」「マザーグリーン」は、従来のリーフレタスと同様に栽培容易でありながら、玉レタスに近いパリッとした食感が特長の目新しい品種です。

両品種とも病害の発生が少ないうえに、高温期の栽培でも抽苔が遅く、耐暑性に優れているため、幅広い作型で栽培できます。従来のリーフレタスと同様に、幅広い用途に使えることに加えて、苦みも少ないので、サラダの主役としても使えます。また、葉は外側から内側まで適度なサイズでよく揃い、使い勝手にも優れます。

作りやすくおいしい新タイプのリーフレタスを、ぜひお試しください。



# 直売所出荷で差別化を図る 栽培ポイント

## 土づくり、肥料設計のポイント

マメ科作物は連作を嫌うので、4～5年間隔の輪作を計画するのがよいでしょう。また、石灰、微量元素による土壌酸度の矯正、堆肥による土壌改良も有効でしょう。マメ科作物の根には根粒菌が着生しチッソが供給されるので、元肥のチッソ量は少なめとします。また、春先の雑草防除のため、マルチ栽培とします。

## ここが重要！ 播種のポイント

エンドウ、ソラマメともに、関東以西の中間地では10月中旬～11月上旬の播種が標準です。エンドウは畝幅160cmに1条植えとし、株間は25cm程度とします。1穴2～3粒ずつ直播し、種子が隠れる程度に覆土します。灌水は最初にしっかり行い、発芽までは極端に乾燥させない程度で十分です。発芽が揃ったら間引きを行いましょう。

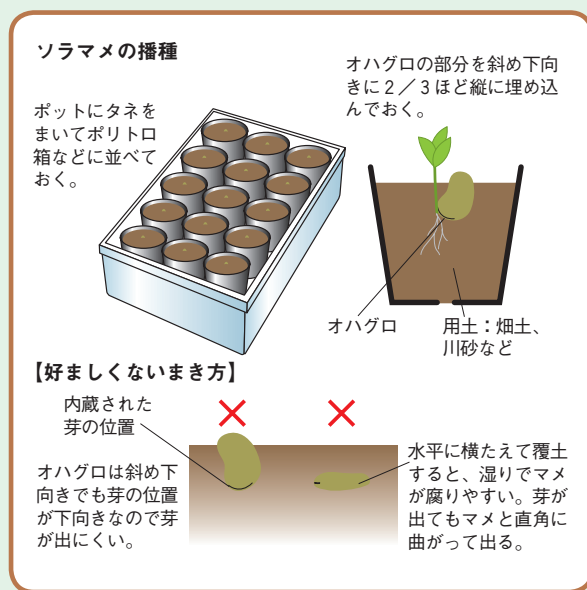
ソラマメは畝幅150cm、株間40cmを基準とします。ソラマメは直接圃場に播種すると、多湿や乾燥などによる発芽の不揃いや腐敗することが多いので、ポット育苗による移植栽培が好ましいです。播種は9cmポットにオハグロ(タネのへその部分)を下にして土に2/3程度を押し込むようにしてまきます(図)。通気性を持たせるため、川砂を用いて種子が隠れる程度に覆土します。

## 収穫時期の見極め方

キヌサヤエンドウは、子実が目立つ前のやわらかい時期に収穫します。スナップエンドウは子実が十分に肥大したところが最も甘く収穫適期です。「グルメ」なら莢の長さが10cm、「ジャッキー」

なら8cmになったころです。実エンドウの「ウスイ」の収穫適期は莢自体が白くなってきたころになります。「久留米豊」や「南海緑」は莢色が濃く莢表面のしわが目立ちにくいので、実際に莢を剥いて実の充実度を確認するとよいでしょう。

ソラマメの収穫は、莢が少し垂れ下がって縫合部が茶色になってくるころが最適です。試しむきをして、オハグロが黒くなる前に収穫します。



■直売所出荷向け エンドウ、ソラマメ標準栽培 適期表  
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

エンドウ		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
中間地	キヌサヤエンドウ									
	スナップエンドウ									
	実エンドウ									
ソラマメ		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
中間地										

● 播種 — 生育期 — 収穫期



売上アップを  
目指す!  
直売所出荷で  
いいもの作ろう!

# エンドウ、ソラマメ

食味と鮮度のよさで差別化を図る!



エンドウ、ソラマメ担当  
中山 健治

## 直売所出荷向きの品種選定

### エンドウ

#### ●キヌサヤエンドウ

キヌサヤエンドウは輸入品が多いため、鮮度がアピールポイントとなる直売所出荷に向いているといえます。代表的な品種に、早生で豊産種の「**成駒三十日**」と極早生で双莢性に優れた「**兵庫絹莢**」があります。両品種とも耐寒性に優れ、肉質がやわらかく食味のよい品種です。また、莢がひと回り大きくて食味のよい「**仏国大莢**」、矮性で栽培容易な濃緑早生種「**矮性赤花絹莢**」も差別化商品としておすすめです。

#### ●スナップエンドウ

子実を大きくして莢ごと食べるエンドウで、甘さと風味が豊かなことからサラダや炒め物に用いられます。おいしい肉厚の大莢で、甘みと歯切れがさわやかな「**グルメ**」、強勢で栽培容易な多収品種「**ジャッキー**」がおすすめです。

#### ●実エンドウ

直売所出荷向きとして、濃緑で見た目に優れ、大変甘く大粒の「**久留米豊**」や、暖地向きで草勢、収量の安定した「**南海緑**」があります。また、強勢で分枝数が多く、双莢性の高い豊産種「**ウスイ**」は、全国的に普及している実とり用の代表的品種です。「**久留米豊**」や「**南海緑**」と比べて甘みが控えめで、豆ご飯に向いています。直売所向けに栽培する場合は鮮度がより重要となります。

仁徳一寸：3粒莢が多く、作りやすい中早生の豊産種。



莢ごと食べられるスナップエンドウ。甘さと風味が特長でサラダなどに向く。



### ソラマメ

品質の低下が非常に早い品目なので、新鮮さが魅力の直売所出荷向きといえます。おすすめ品種は、3粒莢率が高くて、青実のへそ（オハグレ）の色が黒くなりやすく、新鮮さが長もちする「**三連**」です。着莢、肥大も安定しており、高い収量性を発揮する中早生種です。豆・莢ともに鮮やかなグリーンで、一見して他品種と区別ができる色沢の優れた「**仁徳一寸**」も直売所に向きます。「**一寸大そらまめ**」は、市場性の高い3cm前後の大粒で、甘みが強く、柔軟な2～3粒莢の多い短太莢の豊産種です。変わりだねとしては、「**さぬき長莢早生**」があります。四国で発達した品種で、莢つきが多く、長莢に中粒が5～6粒入るのが特長です。

### 私の一押し!

#### おいしいスナップエンドウ「グルメ」

直売所出荷では食味や見た目も重要なポイントになってきます。「**グルメ**」は特に甘みが強く、おいしさは群を抜いています。また莢色もツヤのある濃緑色で見た目に優れているので、直売所向きの品種といえるでしょう。一度チャレンジしてみてください。

### 栽培 Q&A

#### Q：エンドウが冬場に枯れることが多いのはなぜですか？

A：エンドウは、本葉2～3枚のころに最も耐寒性が強くなるので、この状態で越冬させることがポイントです。株が大きくなるにつれ耐寒性が劣ってくるため、播種が早すぎたり、近年の暖冬傾向で年内に生長が進みすぎたりすると、枯れることが多くなるので播種期に注意が必要です。

#### Q：ソラマメの枝の整理はどのようにしたらよいですか？

A：茎が込み合う前に、1株7～8本立ちにし、全体の日当たりをよくしておくことで莢つきがよくなり、子実も充実します。枝が伸びすぎて倒伏するようであれば、先端部の20cm程度は切り捨てても構いません。



# 直売所出荷で差別化を図る 栽培ポイント

## 播種と育苗の注意点

発芽適温は15～20℃です。一般地で秋～冬どり露地栽培なら播種は6月ごろになるので、場合によっては遮光が必要になります。また、播種時・育苗時での乾燥は絶対に厳禁です。適温下でも乾燥すると発芽率が下がるので、注意します。

少量の苗でよい場合は、播種箱や200穴トレイなどを利用します。育苗用の培土を使った方が便利ですが、できるだけ肥料分の多いもの（タキイ「たなまき培土」など）を使います。播種箱を利用する場合は、本葉2枚目ごろを目安に1回目の移植を、本葉4～5枚目ごろを目安に2回目の移植を行います。トレイ育苗の場合もこれに準じますが、根が回るまでは移植なしでも育苗できます。

1回目の移植は3号ポットに、2回目の移植は5号ポットにそれぞれ培土を詰めて移植すると、定植時の植え傷みが軽減できます。

## 畑の準備と定植

セルリーは有機質を多く含む土壌を好み、酸性土壌を嫌う傾向があります。また野菜の中でも特に肥料を多く必要とします。平均施肥量は10a当たり各成分量で、チッソ＝80kg、リン酸＝60kg、カリ＝60kgとなっており、ほかの野菜の2～3倍は必要といわれます。

まず、10a当たり堆肥を2～3t、苦土石灰を100～150kg施し、よく混ぜてなじませておきます。元肥は緩効性の化成肥料（チッソ：リン酸：カリ＝10：10：10）を10a当たり300～400kg（必要量の約1/2）くらい、定植の10日前までには施用して、先ほどと同じく、よく土と混ぜてなじませておきます。畝幅は120cmくらいが基本で、そこに株間40cmで2条植えにします。

本葉7～8枚ごろが定植適期ですが、若苗の方が植え傷みが少なく、初期生育が順調に進みます。

## 追肥と灌水

定植後、収穫までは2カ月半から3カ月かかります。その間に追肥は3回くらいを目安に行います。1回目の追肥は定植後2週間くらいが目安で、速効性の化成肥料（チッソ：リン酸：カリ＝10：10：10）を10a当たり100kg程度、株元に施肥し、併せて中耕と土寄せを行います。その後は生育を見ながら半月ごとを目安に2回目、3回目の追肥をします。肥料や施肥量は1回目と同様で構いませんが、外葉が大きくなってくるので、畝の肩に施肥しましょう。

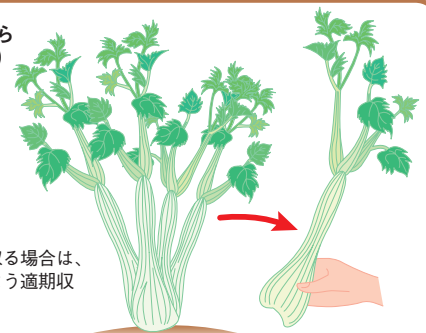
セルリーは比較的湿気を好む作物なので、生育期間中も乾燥すると葉の伸びが極端に悪くなります。畝間に水がたまるほどの過湿条件では生育が止まりますが、天候と生育を見ながら、適宜灌水することを忘れないようにします。ひとつの目安は葉の色で、急に葉の色が濃くなった時は乾燥のサインなので、その時に灌水しましょう。

## 外葉かきと収穫

生育が進んで芯葉が立ち上がり始めたら、古くなった下葉はかき取ります。葉かきは収穫までに2～3回行いますが、一度にたくさんの下葉を取りすぎないようにします。下葉を取ることで芯葉の生育が促されるとともに、株元の風通しがよくなり、病気の予防にもつながります。

十分に葉軸が肥大すれば収穫です。株ごと掘り上げて収穫しても構いませんし、葉かきの要領で外の方から葉を1枚ずつ収穫するのもよいでしょう。その時は丁寧に収穫しないと病気を誘発しかねないので、注意が必要です。過熟になるとスが入って品質が低下するので、適期収穫に努めます。

収穫（外葉からかき取る場合）



外葉からかき取る場合は、スが入らないよう適期収穫を心掛ける。



売上アップを  
目指す!  
直売所出荷で  
いいもの作ろう!

# セルリー

料理のアクセント、セルリーはいかが？



セルリー担当  
平松 宏典

## 直売所出荷向きの品種選定

セルリーには、ビタミンAやカロテン、ビタミンCなどが多く含まれ、古代では整腸剤や強精剤など薬用に用いられていました。また食物繊維も多く含んでおり、整腸やコレステロールの低下にも効果があるといわれています。

セルリーは栽培期間が長くかかりますが、サラダだけでなく、スープの具や炒め物にしてもおいしくいただけますし、一度植え付けると長期間にわたり収穫できることもあり、家庭菜園や直売所でも人気の高い品目です。

### 私の一押し!

#### 用途が広がるミニセルリー「ミニホワイト」

直売所ならではの品揃えでぜひおすすめしたいのが、ミニセルリーの「ミニホワイト」です。

本種は普通のセルリーと違い、葉軸は細くて白く、香りも味もそれに比べてマイルドなので、セルリーが苦手な人でも食べやすいことが特長です。

ミニサイズなので栽培期間も普通のセルリーより短く、一般地なら播種後60日前後で収穫できます。直播栽培の方が好ましく、播種は条まきとします。本葉4～5枚までに適宜間引きをし、最終株間は3cm前後とします。収穫は草丈20～25cm程度で行います。繊維質が強くなるため、過熟



セルリーが苦手な人でも食べやすい風味の「ミニホワイト」のサラダ。

での出荷は避けましょう。

また、ベビーリーフとしての利用もおすすめです。上記の作り方で、途中間引きの 때가収穫になります。本葉が数枚の若い時に収穫するので、さらにくせがなく、さわやかな香りはサラダのアクセントに最適です。

## 大株セルリー おすすめの2品種

「コーネル619号」は日本で最もポピュラーな品種です。適期栽培では定植後70日ごろから収穫可能で、90日後くらいで約2kgまで肥大します。

「トップセラー」は生育旺盛な淡緑系のF1品種です。「コーネル619号」より葉色が濃く、香りも強いことが特長です。



セルリーは、有機質を多く含む土壌で栽培する。また、肥料を多く必要とする点も考慮すること。

■直売所出荷向け セルリー標準栽培 適期表  
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

品種名	栽培	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
トップセラー	中	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
コーネル619号	間	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ミニホワイト	地			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

●播種 ---育苗期 ×定植 —生育期 ≡ハウス  
:::温床育苗 ◡トンネル ■収穫期

コーネル619号：黄軸で肉厚の大株。繊維が少なく、トップセラー：作りやすい、淡緑系のF1セルリー。品質良好で食味がよい。葉色は鮮度のよい淡緑色で外観もよい。

ミニホワイト：葉柄の白さと淡黄緑色の葉のバランスがよい。スープにピッタリのやわらかさ。





# 直売所出荷で差別化を図る 栽培ポイント

## 適した圃場選びとは…

今回紹介した「サラダむすめ」は作りやすい品種ですが、ゴボウを栽培する上では、やはり圃場選びが重要です。適地は日当たりがよく、排水のよい圃場です。一般にゴボウは湿害に弱いため、地下水位の高い所や耕土の浅い所では高畝で栽培する必要があります。

また、ゴボウは連作を嫌うので、一度栽培した圃場では数年間、ゴボウの栽培は避けてください。さらに、土壌センチュウや根腐病の予防には、栽培前の土壌消毒が必要です。



生育途中の様子。このように順調に生育させるためにも、日当たり・排水ともによい圃場を選び、ゴボウの連作は避けること。

## 施肥について

ゴボウは酸性の土壌を嫌います。pH6.5～7.0になるよう、苦土石灰を施してください。

施肥は元肥2/3、追肥1/3の割合とし、そのうち追肥は2回に分けて施します。追肥の目安時期は、1回目が本葉3～4枚時、2回目は8～9枚時に行います。

## 播種、間引きの際の注意点

畝幅60～70cm、株間10cmで栽培します。1穴に3～4粒程度を目安に播種します。覆土は1～1.5cm程度で、播種した後に軽く鎮圧します。

ゴボウの生育適温は20～25℃なので、気温の低い時期での栽培は、ビニールトンネルなどで被覆

して地温を高めてください。また、本葉1枚までは乾燥に弱いので、圃場が乾きすぎないように管理しましょう。

間引きは、本葉1～2枚時に2本、3～4枚時に1本にしてください。



本葉1枚までは乾燥に弱いため、注意する。



本葉3～4枚時には1本に間引く。1回目の追肥もこの時に施す。

## 収穫時期の目安

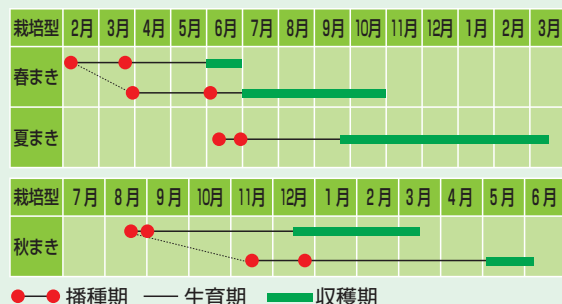
収穫時期は、根径が1.5～2cmごろからです。収穫期間は比較的長いですが、今回おすすめしている早太りの品種「サラダむすめ」を栽培した場合は、収穫遅れになるとス入りや空洞の原因となるので注意してください。

## 害虫防除のために

ヨトウムシやコガネムシの幼虫が発生し、発芽した苗を食害して欠株になったり、根の先端を食害して又根の発生を助長するので、播種前に粒剤の殺虫剤を土壌によく混ぜて予防してください。

また、ゴボウはアブラムシがつきやすいので、登録農薬の散布を適宜実施してください。葉がかなり大きくなるので、葉全体にかかるようにジェットノズルでの薬剤散布が必要となります。

■直売所出荷向け「サラダむすめ」標準栽培 適期表  
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)



タ本のタキイ

繊維質たっぷり!  
ゴボウを食べてお腹の調子  
イキイキ

サラダ  
おすすめ

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。

売上アップを  
目指す!  
直売所出荷で  
いいもの作ろう!

# ゴボウ(サラダむすめ)<sup>®</sup>

〈PVP登録名:てがる〉

“とれたてゴボウ”でさらなる人気アップを目指そう!



ゴボウ担当  
藤田 守久

## 直売所出荷向きの品種選定

ゴボウは健康野菜として今も重宝がられている野菜のひとつですが、生育期間が長いとか耕土の深さが必要、同じ圃場で2年続けて栽培できないといったように、栽培においていろいろと制限が多い野菜でもあります。したがって、なかなか収穫したてのゴボウを手軽に食べる機会に恵まれないので、直売所で「とれたてゴボウ」として陳列すれば、とれたての歯ごたえに驚き、人気の一品になることでしょう。

### 短根の超極早生種 「サラダむすめ」

ゴボウの品種はいろいろありますが、その中でも白肌で作りやすく、早く収穫できる「サラダむすめ」をおすすめします。とれたてのやわらかさも抜群です。

「サラダむすめ」の特性をまとめると…

#### ①超極早生種

既存のゴボウと比べて早太り性が格段に優れているため、春まき露地栽培では播種後100日程度で直径1.5～2cmとなり、収穫できます。

#### ②サラダに最適な品質

ゴボウ特有の香りがあり、歯ごたえもよい品種です。また、アクも少ないのでゴボウサラダに適した品質です。

サラダむすめ：白肌で鮮度がよく、香り・食味ともに優れる。根長は40cm程度となる短根の超極早生種。



#### ③短根で作りやすい

通常のゴボウと比べて10～20cmほど短根のため、かなりの手間と労力がかかっていた掘り取り作業が極めて省力的に行えます。

### 「サラダむすめ」の適作型

地域や栽培方法によって、春まき、夏まき、秋まきが可能です。適期表と併せて参考にしてください。

#### ●春まき

- 2月上旬～3月下旬まき→5月下旬～6月どり  
トンネル+マルチ栽培
- 3月下旬～6月上旬まき→7～10月どり  
露地栽培

春まきの露地栽培が、ゴボウを栽培するうえで一番栽培しやすい作型です。

#### ●夏まき

- 6月上旬～7月上旬まき→9月下旬～3月中旬どり  
雨よけハウス栽培

#### ●秋まき

- 8月下旬まき→12月中旬～3月中旬どり  
暖地の露地栽培
- 11月中旬～12月下旬まき→5月上旬～6月上旬どり  
トンネル栽培

「サラダむすめ」を使った調理例。アクが少ない品種なので、特にサラダに最適。  
写真上/洋風柳川(左)、ごまみそ煮(右)  
写真下/ゴボウのチップスサラダ(左)、ゴボウサラダ(右)





# ゴデチャ

華やかな花卉が人気！

## 直売所出荷向きの品種選定

晩春から初夏にかけて、赤や白、桃色のやわらかな花を咲かせるゴデチャ。派手であてやかな切り花が多くなっていますが、可憐なゴデチャを直売所に出荷してみたいかでしょうか。露地での栽培も比較的容易ですが、雨よけの可能な無加温ハウスでの栽培がおすすめです。

「F1フラミンゴ」系…草丈70～80cmに伸びる一重の頂天咲きです。早生種なので加温をして促成栽培も可能です。F1種なので揃いがよく、栽培し

やすいのが特長です。レッド（紅色）、ラベンダーピンク（桃色）、サーモン（鮭肉色）、ラベンダー（淡藤色）、ホワイト（白色）、ラベンダーローズアイ（淡藤色に中心桃色）の6色があります。

「ミス長崎」…鮮やかなサーモンピンク色の頂天咲き品種です。

作りやすいゴデチャとして、この2品種が一推しです。

## 直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

ゴデチャは丈夫で作りやすい草花ですが、多湿や多肥での栽培になると、枝が茂りよい切り花ができません。土質は特に選びませんが、水はけのよい砂質土壌が適します。また、元肥は控えめにし、野菜などの後作でよく肥えた畑を使用する場合は、無肥料で栽培するとよいでしょう。露地でも比較的容易に栽培できますが、より品質の高い切り花出荷を目指すには、パイプハウスなどの施設栽培がおすすめです。

播種は9月下旬～10月上旬に行います。種子は細かく直根性で移植を嫌うため、200～288穴トレイに播種し、小苗で定植するのがよいでしょう。播種後30日、本葉4～5枚ごろに20～25cm間隔で定植します。茎が細く倒伏しやすいので、草丈40

～50cm程度になったらフラワーネットをかけます。特に過湿に弱く、うどんこ病や立枯病が発生しやすいので、栽培を通して乾燥ぎみに管理します。

側枝が多数発生するので、草丈10～15cm程度で摘芯し、4～6本に整枝するのが良品の切り花<sup>つぼみ</sup>を出荷するポイントになります。頂天咲きで蕾が7～10個つきますが、3～4輪開花したころが切り時です。

■直売所出荷向け ゴデチャの切り花栽培 適期表  
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

栽培型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハウス										●	●	

●● 播種 — 生育期 — 出荷期

「F1フラミンゴ」系：草丈70～80cmの立性で、花径4～5cmの一重頂天咲き。



ミス長崎：鮮やかなサーモンピンクの花色が特長。



売上アップを  
目指す!  
直売所出荷で  
いいもの作ろう!

# 金盞花 (カレンジュラ)

低コストで手軽に栽培できる鮮やかな花!



金盞花、ゴデチャ担当  
佐々木 理之

## 直売所出荷向きの品種選定

春から初夏にかけて、光沢のあるオレンジ色や黄色の花弁が幾重にも重なる花を咲かせる金盞花は、仏花などを中心に大衆的な花として古くから栽培されてきました。栽培は比較的簡単で、暖地から中間地では露地でも手軽に切り花栽培が可能です。春から初夏の直売所出荷にぜひおすすめしたい品種は、以下の4品種になります。

「オレンジスター」…中安系と呼ばれる光沢のあるオレンジ色の品種です。花弁の重ねがよく、草丈もよく伸びるので、切り花栽培では主要品種

になっています。また、1株当たり8～10本の採花が可能で、根元から出るシュートは非常によく伸び、ロスが少なく出荷できます。

「ゴールドスター」…「オレンジスター」と同じく中安系で、花色は鮮やかな濃黄色です。

「むらじ」…オレンジ色の万重咲き大輪種です。生育旺盛で作りやすい品種です。

「やしま芯黒」…濃いオレンジ色に芯が黒くなる大輪種です。花弁数が極めて多く、茎がかたくよく伸びるのが特長です。

## 直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

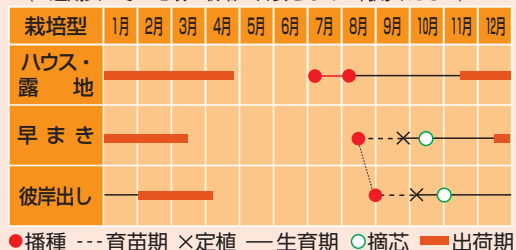
需要の多い3月のお彼岸に出荷する場合は、9月上旬に播種します。また、年内から2月にかけて出荷する場合は、8月中旬に播種します。移植が容易なので、128～200穴トレイにまくとよいでしょう。

播種後約2週間、本葉2～3枚で2.5～3号ポットに植え替え、本葉5～6枚で株間20～25cm間隔で定植します。酸性土壌を嫌うので、苦土石灰を施し、pH6.0～6.5にします。

病害虫はアブラムシやうどんこ病が発生するので、薬剤で防除します。本葉10～12枚になって6～7枚葉を残して摘芯すると、サイズの揃った切り花を出荷することができます。

また、草丈は80～100cm程度とよく伸びるので、栽培に応じて支柱や誘引をして倒伏ないようにします。暖かい時期では5分咲き、寒い時期では7分咲きくらいで採花するとよいでしょう。

■直売所出荷向け 金盞花の切り花栽培 適期表  
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)



オレンジスター、ゴールドスター：2品種とも鮮やかな花色が美しいのが特長。



むらじ：オレンジ色の大輪種で、生育旺盛で株張りもよい。



やしま芯黒：花は黒芯で花弁数が多い。茎がかたく、耐寒性の強い中安型の早生種。

